

タウラ症候群

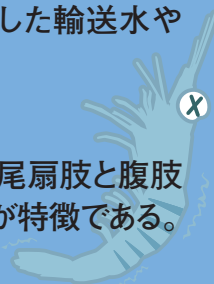
Taura Syndrome; TS

主にホワイトレグシュリンプに発生するウイルス病

主にホワイトレグシュリンプに発生しているウイルスによる病気である。1991年にエクアドルで初めて発生し、1992～1995年に南北アメリカ大陸に広まり、現在では東南アジア諸国においても発生している。

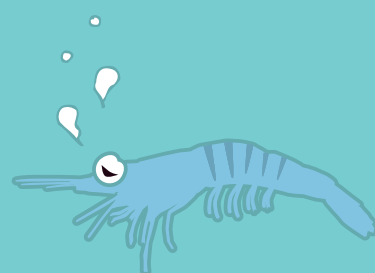
どんな病気?

1. 稚エビから成エビまで感染する。感染したエビの共食い、ウイルスに汚染した輸送水や飼育用水によって感染が拡大する。
2. 症状は急性期、移行期、慢性期に分けられる。
3. 外観症状は、急性期および移行期では体全体が薄赤く変色する。中でも尾扇肢と腹肢が明らかに赤くなる。また、急性期では殻が柔らかいことと胃が空であることが特徴である。



病気が発生したくまえび属のえび類

ホワイトレグシュリンプ、ブルーシュリンプなど

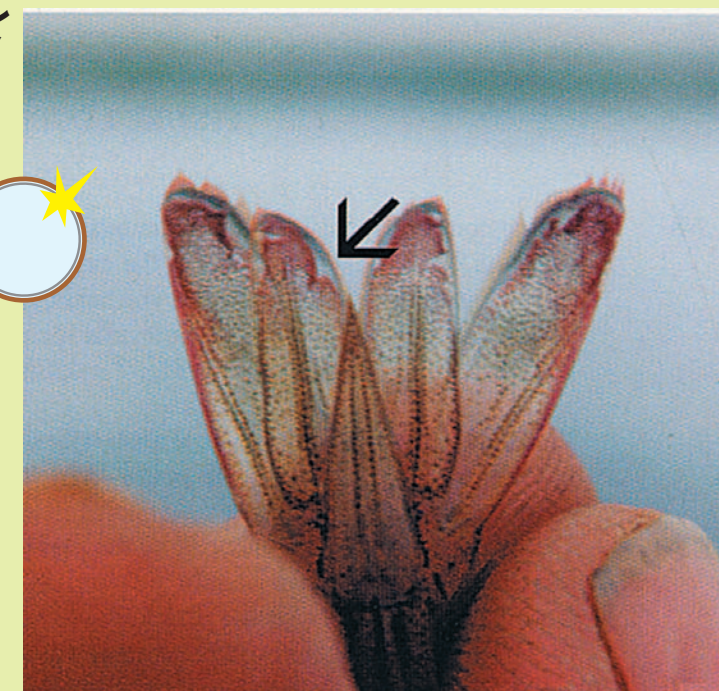


発生があった国・地域

アメリカ合衆国、中南米諸国
台湾、中国、タイ、インドネシア、マレーシア



体全体が薄赤色に見える(ホワイトレグシュリンプ)。
【D.V.Lightner博士提供 1996】



尾扇肢(尾脚)が赤く見える(ホワイトレグシュリンプ)。
【D.V.Lightner博士提供 1996】